第４章　これまでの調査と取組

第１節　これまでの調査の概要

１．調査の概要

これまでに町内で実施された文化財調査を整理すると、調査主体は京都府、精華町、開発事業者、住民、大学・研究者の５つに大別されます。

（１）京都府

京都府教育委員会が、府内全域を対象に、建造物（社寺・民家）・美術工芸品（彫刻）・民俗文化財・記念物（中世城館・歴史の道）といった特定のテーマに沿って実施した文化財調査のなかで、精華町内の文化財も取り上げられています（表 4-1）。

また、府が指定・登録等を行った文化財の調査概要が『京都の文化財』にまとめられています。平成 29 年（2017 年）度から京都府暫定登録文化財の制度が導入されたことを契機に、近年は暫定登録に伴う文化財調査が進展しました。

京都府立山城郷土資料館が実施した展示会では、精華町に関する文化財が取り上げられることも多く、図録に展示内容が記録されています。また、昭和 61～63 年（1986～1988 年）度にかけて同館は、学研都市（がっけんとし）の開発地区に含まれる東畑（ひがしばた）等を対象に緊急民俗調査を行いました。

埋蔵文化財に関しては、京都府埋蔵文化財調査研究センターが、府道や府立施設の建設用地を中心に一部の町内遺跡の発掘調査を実施してきました。そのうち大きな発見があった遺跡としては、鞍岡山（くらおかやま）２号墳（下狛（しもこま））・椋ノ木（むくき）遺跡（下狛）・北稲遺跡（北稲八間（きたいなやづま））・森垣外（もりがいと）遺跡（南稲八妻（みなみいなやづま））・樋ノ口（ひのくち）遺跡（山田・木津川市相楽（さがなか））が挙げられます。

動物・植物・地質鉱物の分野については、京都府が、府内における絶滅のおそれがある野生生物種や保護を要する地形・地質等を把握するため、京都府レッドデータ調査を実施しています。その成果は京都府レッドデータブックとして公表されています。

表 4-1　京都府による調査報告書の一覧（1/2）

類型		調査主体	報告書等名称	刊行年
建造物	社寺建築	京都府教育委員会	重要文化財春日神社本殿修理工事報告書	昭和 29 年（1954 年）
		京都府教育委員会（京都府文化財保護基金編）	京都の社寺建築（南山城編）	昭和 54 年（1979 年）
		京都府教育委員会	京都府の近世社寺建築	昭和 58 年（1983 年）
	民家	京都府教育委員会	京都府の民家調査報告（第７冊）	昭和 50 年（1975 年）
			京都府の近代化遺産	平成 12 年（2000 年）
			京都府の近代和風建築	平成 21 年（2009 年）
美術工芸品	彫刻	京都府教育委員会	京都の文化財（第３集南山城篇）	昭和 44 年（1969 年）
民俗文化財	無形民俗	京都府教育委員会	京都の田遊び調査報告書	昭和 54 年（1979 年）
			京都府無形民俗文化財　祝園のいごもり祭（ビデオ）	平成６年（1994 年）
			京都府祭り・行事調査事業報告書（基礎調査編Ⅰ、詳細調査編）	令和３年（2021 年） 令和５年（2023 年）
記念物	遺跡	京都府教育委員会	京都府中世城館跡調査報告書（第３冊山城編１、第４冊山城編２、別冊）	平成 26 年（2014 年） 平成 27 年（2015 年）
			京都府歴史の道調査報告書第二冊　大坂街道・高野街道・郡山街道	令和５年（2023 年）
		京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府遺跡調査概報８　祝園地区所在遺跡昭和 57 年度発掘調査概要	昭和 58 年（1983 年）
			京都府遺跡調査概報 11　祝園地区所在遺跡昭和 58 年度発掘調査概要	昭和 59 年（1984 年）
			京都府遺跡調査概報 48　樋ノ口遺跡発掘調査概要	平成４年（1992 年）
			京都府遺跡調査概報 68　北稲・柿添遺跡発掘調査概要	平成８年（1996 年）
			京都府遺跡調査概報 72　柿添遺跡第２次発掘調査概要	平成８年（1996 年）
			京都府遺跡調査概報 77　柿添遺跡第３次発掘調査概要	平成９年（1997 年）
			京都府遺跡調査概報 77　森垣外遺跡第１次発掘調査概要	平成９年（1997 年）
			京都府遺跡調査概報 81　椋ノ木遺跡平成７・８年度発掘調査概要	平成 10 年（1998 年）
			京都府遺跡調査概報 85　椋ノ木遺跡平成９年度発掘調査概要	平成 10 年（1998 年）
			京都府遺跡調査概報 86　森垣外遺跡第２次発掘調査概要	平成 11 年（1999 年）
			京都府遺跡調査概報 86　畑ノ前遺跡発掘調査概要	平成 11 年（1999 年）
			京都府遺跡調査概報 91　森垣外遺跡第３次発掘調査概要	平成 12 年（2000 年）
			京都府遺跡調査概報 94　柿添遺跡第４次発掘調査概要	平成 12 年（2000 年）
			京都府遺跡調査概報 96　森垣外遺跡第４・５次発掘調査概要	平成 13 年（2001 年）
			京都府遺跡調査概報 101　椋ノ木遺跡第４次発掘調査概要	平成 13 年（2001 年）
			京都府遺跡調査概報 105　椋ノ木遺跡第５次発掘調査概要	平成 14 年（2002 年）
			京都府遺跡調査概報 106　畑ノ前遺跡第６次発掘調査概要	平成 15 年（2003 年）
			京都府遺跡調査概報 110　椋ノ木遺跡第６次発掘調査概要	平成 16 年（2004 年）
			京都府遺跡調査概報 115　椋ノ木遺跡第７次	平成 17 年（2005 年）
			京都府遺跡調査報告集 140　八幡木津線関係遺跡（鞍岡山２号墳・下馬遺跡・片山遺跡）	平成 22 年（2010 年）
			京都府遺跡調査報告集 143　椋ノ木遺跡第８次	平成 23 年（2011 年）

表 4-1　京都府による調査報告書の一覧（2/2）

類型		調査主体	報告書等名称	刊行年
記念物	遺跡	京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府遺跡調査報告集 151　椋ノ木遺跡第９・10 次	平成 24 年（2012 年）
			京都府遺跡調査報告集 162　椋ノ木遺跡第 11 次	平成 27 年（2015 年）
			京都府遺跡調査報告集 165　乾谷遺跡	平成 28 年（2016 年）
			京都府遺跡調査報告集 165　乾谷大崩遺跡	平成 28 年（2016 年）
			京都府遺跡調査報告集 193　柘榴川原遺跡・石原遺跡	令和６年（2024 年）
			京都府埋蔵文化財情報 11　精華町祝園地区遺跡	昭和 59 年（1984 年）
			京都府埋蔵文化財情報 15　稲八妻城跡	昭和 60 年（1985 年）
			京都府埋蔵文化財情報 25　南稲八妻城跡	昭和 62 年（1987 年）
			京都府埋蔵文化財情報 42　樋ノ口遺跡を山田寺跡にあてる考証	平成３年（1991 年）
			京都府埋蔵文化財情報 42　樋ノ口遺跡の調査	平成３年（1991 年）
			京都府埋蔵文化財情報 51　北尻遺跡	平成６年（1994 年）
			京都府埋蔵文化財情報 56　北稲・垣添遺跡	平成７年（1995 年）
			京都府埋蔵文化財情報 59　垣添遺跡第２次	平成８年（1996 年）
			京都府埋蔵文化財情報 60　椋ノ木遺跡	平成８年（1996 年）
			京都府埋蔵文化財情報 63　垣添遺跡第３次	平成９年（1997 年）
			京都府埋蔵文化財情報 67　椋ノ木遺跡第３次の発掘調査	平成 10 年（1998 年）
			京都府埋蔵文化財情報 68　南山城における渡来人集落の一様相－精華町森垣外遺跡の概報と問題点の指摘－	平成 10 年（1998 年）
			京都府埋蔵文化財情報 69　畑ノ前遺跡	平成 10 年（1998 年）
			京都府埋蔵文化財情報 80　椋ノ木遺跡第４次	平成 13 年（2001 年）
			京都府埋蔵文化財情報 83　椋ノ木遺跡第５次の調査成果	平成 14 年（2002 年）
			京都府埋蔵文化財情報 85　椋ノ木遺跡第６次	平成 14 年（2002 年）
			京都府埋蔵文化財情報 88　椋ノ木遺跡第６次	平成 15 年（2003 年）
			京都府埋蔵文化財情報 90　畑ノ前遺跡	平成 15 年（2003 年）
			京都府埋蔵文化財情報 94　椋ノ木遺跡第７次	平成 16 年（2004 年）
			京都府埋蔵文化財情報 108　鞍岡山古墳・下馬遺跡・片山遺跡	平成 21 年（2009 年）
			京都府埋蔵文化財情報 112　椋ノ木遺跡（第８次）	平成 22 年（2010 年）
			京都府埋蔵文化財情報 112　下馬・片山遺跡	平成 22 年（2010 年）
			京都府埋蔵文化財情報 113　下馬・片山遺跡	平成 22 年（2010 年）
			京都府埋蔵文化財情報 115　椋ノ木遺跡第９次	平成 23 年（2011 年）
			京都府埋蔵文化財情報 117　椋ノ木遺跡第 10 次	平成 24 年（2012 年）
			京都府埋蔵文化財情報 123　椋ノ木遺跡第 11 次	平成 26 年（2014 年）
			京都府埋蔵文化財情報 126　乾谷遺跡・乾谷大崩遺跡	平成 27 年（2015 年）
建造物 民俗文化財	民家、無形民俗、有形民俗	京都府立山城郷土資料館	関西文化学術研究都市開発地区緊急民俗調査報告書	平成２年（1990 年）
記念物	植物	京都府	自然環境保全基礎調査　京都府南部地域の社寺林	平成２年（1990 年）
	動物・植物・地質鉱物	京都府	京都府レッドデータブック 2015	平成 27 年（2015 年）

（備考）文化財の類型は報告書に収録された町域の文化財に基づく

（２）精華町

精華町が刊行した調査報告書等の一覧は表 4-2 のとおりです。

精華町による調査は、昭和 58 年（1983 年）から平成 11 年（1999 年）にかけて実施した精華町史編さん事業が代表的なものです。寺社が有する彫刻・絵画・工芸品や自治会・個人宅の古文書について総合的な調査を行い、その成果を踏まえて計７冊の図書を刊行しました。この調査で得られた知見は、重要な蓄積となっています。

町史編さん事業終了後も、古文書調査を継続しており、森島國男家文書（森島清右衛門家文書）について目録を刊行しています（継続中）。

埋蔵文化財については、町内遺跡の詳細分布調査や、各遺跡の発掘調査を実施してきました。発掘調査した主な遺跡には、鞍岡山３号墳（下狛）・下狛廃寺・里廃寺（下狛）・百久保地先遺跡（下狛）・北尻遺跡（南稲八妻）・北尻古墳群（南稲八妻）・蔭山古墳群（南稲八妻）・畑ノ前遺跡（精華台・植田）・畑ノ前古墳群（精華台・植田）・畑ノ前東遺跡（植田）・畑ノ前東古墳群（植田）があります。発掘調査終了後も、大量の出土遺物や図面の整理を継続しています。

民俗文化財のうち無形の民俗文化財については、京都府の調査とも連携しながら、祭りや行事の調査･撮影を実施しました。有形の民俗文化財に関しては、町で受け入れた民具の整理作業を行い、台帳を作成してきました。

表 4-2　精華町による調査報告書等の一覧

類型		調査主体	報告書等名称	刊行年
全般		精華町	精華町史　史料篇Ⅰ	平成元年（1989 年）
			精華町史　史料篇Ⅱ	平成４年（1992 年）
			精華町史　本文篇	平成８年（1996 年）
			せいか歴史物語	平成９年（1997 年）
			精華町の寺社と美術	昭和 61 年（1986 年）
			写真でみる暮らしと風景	昭和 62 年（1987 年）
			精華町の史跡と民俗	昭和 63 年（1988 年）
美術工芸品	古文書	精華町教育委員会	森島國男家文書目録１・２	平成 20 年（2008 年） 平成 24 年（2012 年）
記念物	遺跡	精華町教育委員会	百久保地先遺跡第一次発掘調査概報	昭和 61 年（1986 年）
		精華町教育委員会 古代学協会	京都府（仮称）精華ニュータウン予定地内遺跡発掘調査報告書―煤谷川窯址・畑ノ前遺跡―	昭和 62 年（1987 年）
		精華町教育委員会	精華町遺跡地図	平成 11 年（1999 年）
			祝園遺跡第１次発掘調査報告書	平成 26 年（2014 年）
			蔭山古墳群試掘調査報告書	平成 29 年（2017 年）
			蔭山古墳群発掘調査報告書	令和５年（2023 年）
			畑ノ前東遺跡発掘調査報告書	令和７年（2025 年）
	動物・植物・地質鉱物	精華町	精華町緑の基本計画　現況調査　評価・解析編	平成 11 年（1999 年）

（３）開発事業者

丘陵部の開発計画策定の一環として、開発事業者による自然環境調査が行われました（表 4-3）。

表 4-3　開発事業者による調査報告書の一覧

類型		調査主体	報告書等名称	刊行年
記念物	動物・植物・地質鉱物	日本住宅公団・財団法人都市調査会	精華町祝園地域開発整備に伴う自然環境調査	昭和 51 年（1976 年）
			木津･祝園地区開発整備に係る自然環境調査	昭和 55 年（1980 年）

（４）住民

住民による調査・研究には、団体によるものと個人によるものがあります（表 4-4）。

北稲八間・光台・桜が丘では、住民有志の手で地域誌が作成されています。

精華町文化財愛護会や精華町の自然と歴史を学ぶ会（休会）の機関誌には、地元に暮らす住民ならではの貴重な投稿も多く収められています。精華町文化財愛護会は、東畑地区の民具整理に取り組み、京都府教育委員会が実施した遺跡地図の作成や祭り・行事調査にも協力しました。また、精華町ふるさと案内人の会は、古老からの聞き取りや行事の映像撮影を行い、地域の多彩な文化財の情報収集に努め、観光ガイドの活動に活かしています。

個人による調査・研究は、町内の道標・記念碑・方言・野生動植物のリスト作成等、地域に密着しフットワークを活かした取組が特徴的です。

表 4-4　住民による地域誌等の一覧

発行者	書名	刊行年
尾崎與一郎（編纂）	稲八間古誌	昭和 30 年（1955 年）
北稲八間区史編集委員会	北稲八間区史	昭和 51 年（1976 年）
北稲八間区	北稲八間区史	平成 22 年（2010 年）
桜遊会・自然歴史クラブ	わたしたちの桜が丘―自然と歴史―	平成 11 年（1999 年）
桜遊会・自然歴史クラブ	わたしたちの桜が丘―自然と歴史―	平成 12 年（2000 年）
光台七丁目自治会	光台のあゆみ　光台まちびらき二十周年記念	平成 24 年（2012 年）
精華町の自然と歴史を学ぶ会	波布理曽能　第 1 ～20 号	昭和 58 年～平成 15 年（1983～2003 年）
精華町文化財愛護会	文化財愛護会だより　第 1 ～42 号（継続中）	昭和 59 年～令和７年（1984～2025 年）

（５）大学・研究者

大学による総合的な調査の例として、近畿大学文芸学部による『淀川水系・木津川の民俗』（平成６年〔1994 年〕）の調査が挙げられます。

研究者による調査の例として、井上頼寿（いのうえよりとし）著『京都古習志』（昭和 15 年〔1940 年〕）･『京都民俗志』（昭和 43 年〔1968 年〕）があります。昭和前期における町域を含む京都近郊の宮座・講・祭りの状況を詳細に記録し、当地における本格的な民俗調査の嚆矢ともいうべき貴重な内容です。

２．把握調査の状況

町内にはさまざまな文化財がありますが、文化財の種類によって調査の進行度は異なっています。表 4-5 は、現時点（本計画作成時）で文化財の把握調査がどの程度実施できているのか、文化財の類型別に示したものです。

表 4-5　類型ごとの把握状況

類型			把握状況
有形文化財	建造物		△
	美術工芸品	絵画	△
		彫刻	○
		工芸品	△
		書跡・典籍	△
		古文書	△
		考古資料	△
		歴史資料	△
無形文化財			×
民俗文化財	有形の民俗文化財		△
	無形の民俗文化財		△
記念物	遺跡		△
	名勝地		△
	動物・植物・地質鉱物		△
文化的景観			△
伝統的建造物群			×
文化財の保存技術			×
その他の宝もの			○

（備考）○：おおむね把握できている
△：部分的に把握している
×：ほとんど把握できていない

類型ごとに把握調査の状況をまとめると次のとおりです。

（１）有形文化財

①　建造物

神社建築のうち、近代以前に建造された本殿については、すでに調査が行われ、指定・登録等がなされています。寺院建築は、ここ 20 年ほどの間に多くの寺院で本堂の建て替えが進み、近世に遡る建築は限られます。そうしたなか、寺社の建造物で、本殿・本堂以外の末社・小堂等に把握調査が十分ではないものもあります。

町内では古い民家の解体が進んでいますが、民家建築の把握調査は、一部の地域にとどまっています。

上記以外の建造物については、部分的な把握にとどまっています。

②　美術工芸品

彫刻（仏像）は、町史編さん事業等で把握調査を行い、おおむね把握できています。

同時に寺院が所有する主要な什物（じゅうもつ）（絵画・工芸品）の把握調査も実施しましたが、部分的なも

のであり、特に近世絵画（仏画）は把握が十分とはいえない状況です。

書跡・典籍、歴史資料については、町史編さんの際に把握調査をしていますが、部分的な把握にとどまっています。

古文書については、町史編さん時に把握調査を実施しましたが、新しく発見された文書もあり、現在も調査（目録作成）を継続中です。

考古資料については、過去に実施した発掘調査で出土した遺物を把握しており、遺物の整理や図面の作成を順次進めています。

（２）無形文化財

把握調査が進んでいません。

（３）民俗文化財

これまでに町が収集した有形の民俗文化財（民具）については、台帳の整備を進めています。寺社が所有する絵馬・奉納額等については、所在の把握調査が行われていません。

無形の民俗文化財については、特定の地区や分野に関する府の調査や、研究者や住民による個別報告がありますが、祭礼等の特定のテーマに集中しており、全般にわたる把握調査は過去に実施されていません。

（４）記念物

遺跡のうち埋蔵文化財に関するものについては、これまでに包蔵地を把握し遺跡地図を作成しました。埋蔵文化財以外の遺跡については、部分的な把握にとどまっています。

また、名勝地や動物・植物・地質鉱物についても、部分的な把握にとどまっています。

（５）文化的景観

部分的な把握にとどまっています。

（６）伝統的建造物群

把握調査が進んでいません。

（７）文化財の保存技術

把握調査が進んでいません。

（８）その他の宝もの

本計画の作成にあたって実施したワークショップや聞き取り等により、おおむね把握できています。

第２節　取組の現状

１．修理

文化財を良好な状態で未来に引き継ぐために、文化財の特性に応じた適切な技術や材料を用いて文化財の保存修理を行ってきました。表 4-6 は町内における指定等文化財の主な修理を一覧にまとめたものです。

指定等文化財の修理については、国・京都府・精華町が費用の一部を補助しています。未指定文化財の修理であっても、基準を満たせば、京都府社寺等文化資料保全補助金が交付されています。

表 4-6　指定等文化財の主な保存修理の一覧

文化財の名称	区分	修理年度	内容
春日神社本殿	国重文	昭和 28 年度（1953）	解体修理
		平成６年度（1994）	屋根葺替・部分修理
		平成 13 年度（2001）	復旧塗装
常念寺木造菩薩形立像	国重文	昭和 25 年度（1950）	保存修理
若王寺木造智証大師坐像	国重文	昭和 14 年度（1939）	保存修理
		令和３年度（2021）	保存修理
新殿神社本殿	府指定	令和３年度（2021）	軒裏天井修繕
武内神社本殿	府登録	平成５年度（1993）	屋根葺替
		平成 16 年度（2004）	壁画復原等保存修理
		平成 27 年度（2015）	屋根部分修理
鞍岡神社本殿	府暫定登録	平成 11 年度（1999）＊	屋根葺替
		令和２年度（2020）	地覆取替
蓮臺寺木造菩薩立像	府暫定登録	平成 16 年度（2004）＊	保存修理
想念寺木造薬師如来坐像	府暫定登録	令和５年度（2023）	保存修理
観音寺木造十一面観音立像	町指定	平成 10 年度（1998）	保存修理
如来寺木造十一面観音立像	町指定	平成７年度（1995）	保存修理
蓮臺寺木造薬師如来立像	町指定	平成 16 年度（2004）	保存修理
春日神社繋馬図絵馬	町指定	平成 26 年度（2014）＊	保存修理

備考：＊は指定・登録前の保存修理

２．公開・発信

（１）文化財展示会

現在、精華町に文化財を常時展示できる施設･設備はなく、収蔵資料も複数の場所・建物に分散して管理しています。こうした環境のなかでも、調査成果を紹介し、文化財の実物を見ていただくために、精華町交流ホール等を数日間会場として利用し、文化財展示会を開催しています。平成 21 年（2009 年）度から開始し、これまでに有形の民俗文化財（民具）・古文書・古地図等を展示してきました（表 4-7）。

文化財展示会

表 4-7　過去に開催した文化財展示会の一覧

名称	期間	会場
むかしの農具　～有形民俗文化財の展示～	平成 22 年（2010 年） ３月 25 日(木)～４月８日(木)	むくのきセンター ２階展示コーナー
むかしの農具　～米づくりの１年～	平成 22 年（2010 年） ８月 24 日(火)～８月 28 日(土)	精華町交流ホール
有形民俗文化財の展示　むかしの食事道具	平成 24 年（2012 年） ８月 30 日(木)～９月４日(火)	精華町交流ホール
文化財〈古文書〉展示　一挙公開！幕末のかわら版 ～アノ事件からコノ事件まで～	平成 26 年（2014 年） ８月 20 日(水)～８月 24 日(日)	精華町交流ホール
〈文化財展示〉精華町と戦争	平成 27 年（2015 年） ８月 26 日(水)～８月 30 日(日)	精華町交流ホール
〈文化財展示〉精華町デジタルミュージアム・コレクション	平成 28 年（2016 年） ７月 28 日(木)～８月１日(月)	精華町交流ホール
〈文化財展示〉山田川流域の古絵図と古文書	平成 29 年（2017 年） ７月 27 日(木)～７月 30 日(日)	精華町交流ホール
〈文化財展示〉つむぐ おる そだてる ―紡織と養蚕の道具展―	平成 30 年（2018 年） ７月 26 日(木)～７月 29 日(日)	精華町交流ホール
〈歴史展示会〉お千代半兵衛 ―近松門左衛門「心中宵庚申」初演 300 年記念―	令和４年（2022 年） 11 月３日(木)～11 月８日(火)	精華町交流ホール

（２）精華町デジタルミュージアム「せいか舎」

精華町の歴史や文化財を、インターネットを使って広く紹介するため、デジタルミュージアム（アーカイブ）のウェブサイトを平成 28 年（2016 年）に構築しました。ミュージアムの名称は「せいか舎」です。歴史・民俗をはじめとする地域資源を再発見し、情報を整理・集積し、インターネットを通じて公開することで、ふるさとの歴史や伝統文化を伝えています。

現在、「せいか舎」には、①精華町史編さん事業で発行された出版物（『せいか歴史物語』・『精華町の史跡と民俗』）のデジタル版、②町内の指定等文化財、③民具、④昔の写真、⑤特集展示のページがあります。このうち、⑤特集展示では、これまでに開催した文化財展示会（前項参照）の内容を紹介しています。

なお、デジタルミュージアムは小学校における郷土学習等にも活用されており、図 4-1 のとおり、令和５年度（2023 年度）のデジタルミュージアム Web サイトアクセス数は、58,434 アクセスでした。

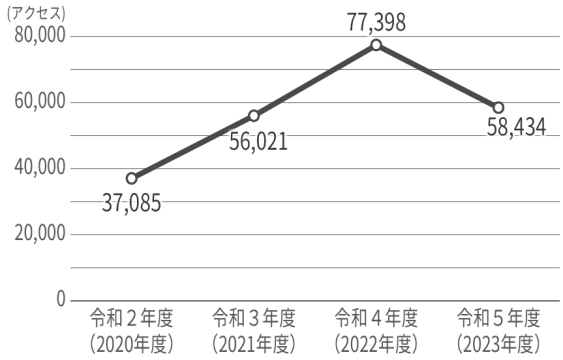

図 4-1　デジタルミュージアムアクセス数

デジタルミュージアム「せいか舎」のトップページ

（３）精華町立図書館

門脇文庫

精華町立図書館は、地域の歴史・文化に関する図書・雑誌の収集を進めています。閲覧室に郷土資料のコーナーを設けており、誰でも閲覧することができます。図書館入口には、精華町の指定等文化財について紹介するデジタルサイネージを設置しています。

また、平成 25 年（2013 年）10 月には、戦後の日本古代史研究をリードした門脇禎二（かどわきていじ）氏（大正 14 年～平成 19 年〔1925～2007 年〕）の蔵書を集めた「門脇文庫」を開設しました。門脇氏が『精華町史』の監修者であったご縁から、ご家族から蔵書の寄贈を受け、図書 6,870 冊、雑誌 2,613 冊を受け入れています。閲覧室の門脇文庫コーナーでは、門脇氏の著作を開架するとともに、自筆ノートや原稿等も合わせて展示しています。閉架書庫に収蔵している蔵書も閲覧が可能です。

この結果、図 4-2 に示すように門脇文庫を含めた郷土資料の蔵書数は、過去 10 年間で３倍近くとなりました。

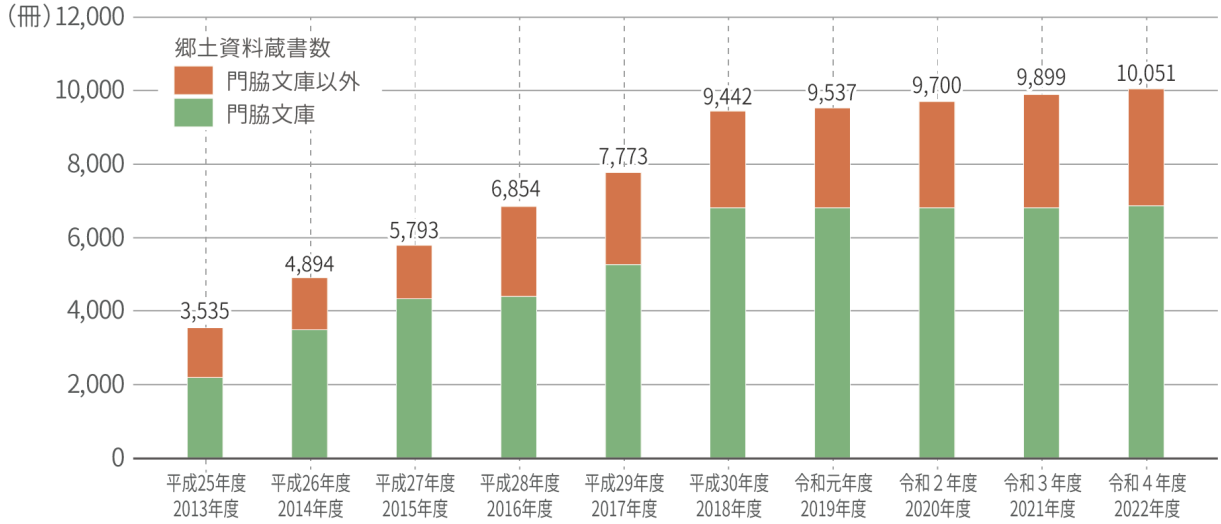

図 4-2　図書館における郷土資料の蔵書数の推移

３．普及・教育

（１）講演会

精華町文化財愛護会が、毎年定期的に町内外の歴史や文化財に関する公開講演会を開催しています。また、精華町教育委員会生涯学習課が主催する「生涯学習講座」や精華町立図書館主催の「図書館文学講座」、精華女性の会による「精華女性講座」では、しばしば歴史・文化財に関連するテーマを取り上げています。

文化財愛護会による公開講演会

このほか、精華中学校のコミュニティ・スクールである「さくらいおん・スクール」では、町の文化財担当職員が「町史・歴史講座」を担当しています。

（２）学校教育

小学校３・４年生の社会科副読本『わたしたちの精華町』では、精華町の地理・施設・産業・歴史・環境・防災防犯・功労者を取り上げ、児童の郷土に関する関心や理解を深めることに力を入れています。また、小学校の授業に活用するため、希望する小学校に対して、町が収蔵する民具の貸し出しも行っています。

中学校では、総合的な学習として「地域貢献プロジェクト」を実施しています。精華町のまちづくりに関心を持ち、課題解決や地域貢献のための取組を考える学習を通じて、課題の解決や探究活動に主体的・協働的に取り組むことを目指すものです。町の幅広いテーマが対象となり、文化財が取り上げられることもあります。

４．住民団体による取組

（１）精華町文化財愛護会

文化財めぐり

精華町文化財愛護会は、郷土の歴史や文化財の調査、研究、保存及びその活用を推進し、広く町民の文化的向上に貢献することを目的とする住民団体で、昭和 42 年（1967 年）11 月の設立以来、半世紀にわたり活動しています。

本章第 1 節で述べた調査・研究活動のほか、地元の古文書を解読し地域史を学ぶ「古文書講習会」・「古文書入門教室」、町内の文化財について事前学習と現地見学を行う「文化財めぐり」を開催しています。また、町内の指定等文化財の価値を広く知ってもらうため、カラー版の小冊子『精華町文化財宝典』を発行するとともに、現地説明板の設置を進めています。

（２）精華町ふるさと案内人の会

せいか小さな旅　チラシ

特定非営利活動法人精華町ふるさと案内人の会は、精華町を中心としたけいはんな地区の歴史や文化・伝統を、地域の内外の人びとに語り部として伝え、観光振興に寄与するとともに、次世代に継承することを目的とする団体です。平成 19 年（2007 年）４月に発足し、平成 28 年（2016 年）７月に NPO 法人化しました。

会の中心的な活動は、観光ガイド事業で、町内の見どころを歩いて案内する「せいか小さな旅」と「ふるさと発見の旅」を年に計 15 回程度実施しています。このほか、本章第 1 節で述べた調査・研究活動や、町内の文化財や旧跡に関する説明板の設置、けいはんな記念公園観月楼（かんげつろう）の「森の Cafe ながたん」の運営等の活動も行っています。

（３）精華町文化財所有者等連絡協議会

精華町文化財所有者等連絡協議会（精文連）は、町内の文化財所有者等で構成される団体で、文化財保護推進のための保存や活用に寄与することを目的とし、令和５年（2023 年）11 月に発足しました。文化財所有者同士のネットワークを構築することで、文化財の維持・管理に関する課題や保存修理・防災・防犯に関する情報を共有し、文化財の公開や災害発生時の迅速な対応につなげていくことを目指しています。

５．観光との連携

（１）精華町

精華町には、観光協会のような独立した組織はありませんが、事業部商工推進室が、精華町ふるさと案内人の会等と連携しながら、観光の振興を推し進めています。

「精華町観光ポータルサイト」では、寺社や文化財を含む観光スポットや、各スポットを巡るモデルコース、グルメ・お土産、イベント情報等を紹介しています。

このほか、観光パンフレット・観光マップとして、「まっぷる・ぶらりまち歩き精華町」や「京都 Seika いいね！なびマップ」を作成し配布しています。

また、令和４年（2022 年）より「精華町の魅力再発見」をコンセプトとするタブロイド紙「みつける」を不定期で発行しています。町広報誌「華創（はなそう）」に折り込むほか、WEB マガジンでも町民に精華町の魅力スポットを紹介しています。

タブロイド紙「みつける」

（２）お茶の京都ＤＭＯ

一般社団法人京都山城地域振興社（お茶の京都ＤＭＯ）は、精華町を含む山城地域 12 市町村（お茶の京都地域）と京都府が連携し、平成 29 年（2017 年）３月に設立された、観光を入口とした持続可能な地域づくりを目的とした法人です。

精華町に関係する取組の例としては、『南山城三十三所観音霊場歴史探訪』のパンフレット発行等が挙げられます。

南山城三十三所観音霊場歴史探訪

６．防災・防犯の取組

（１）防災計画の作成

序章に示したように、精華町では「精華町地域防災計画」（令和６年（2024 年）３月更新）と「精華町国土強靭化地域計画」を策定し、文化財に対する防災対策を定めています。特に、「精華町地域防災計画　地震対策計画編・予防編」の中では「第 12 章　文化財災害予防計画」で「危険箇所を調査し、防災上耐震性の強化を図る」こととし、以下の８つの文化財保護対策の必要性を明記しています。なお、大規模災害等の有事の際の体制は第８章第３節に示します。

① 所有者等の意向を踏まえながら、自動火災報知設備、消火設備、避雷針などの総合的な防災設備の設置に努める。

② 発災時には、水道が使用不能になるおそれもあり、万一の火災に備えて防火水槽等の整備とともに、自衛消防施設の充実をうながす。

③ 文化財の所有者又は管理団体に対する防災の組織、災害時における防災の方法等文化財の防災措置の指導を徹底する。

④ 災害時における文化財の避難、搬出について施設に応じた詳細な計画及びマニュアル作成、消防訓練の指導を行う。

⑤ 災害により万一被害を受けた場合に、復元、修復等がスムーズに行われるよう、ビデオ、映画、写真などの方法を用いて、現状の文化財の調査及び映像の保存を進める。

⑥ 文化財防火デー等の行事に種々の訓練を行う。

⑦ 消防本部と文化財の防火に関係ある機関との連絡、協力体制を確立する。

⑧ 町は、災害に備えて古文書等の専門的職員を配置するとともに、公文書等を管理するなど、知的財産を保全する。

（２）京都府文化財保護指導委員による巡視活動

京都府が委嘱した文化財保護指導委員（精華町の担当は１名）が、町内に所在する国・府の指定等文化財を巡視し、防火・防犯の確認を行います。また、無断の現状変更やき損等の有無についても確認します。

（３）文化財防火訓練

精華町では、毎年１月 26 日の「文化財防火デー」（昭和 24 年（1949 年）のこの日に法隆寺金堂が焼失したことにちなむ）前後の土曜又は日曜に、町内の寺社１か所を選び、文化財の所有者・管理者及び寺社の関係者（寺総代・氏子総代等）と、消防本部、地元の消防団が連携し防火訓練を実施しています。

文化財防火訓練（稲植神社）

（４）防火設備の設置

指定等文化財の所有者には、文化財の類型や指定・登録等の区分に応じて、防火設備の設置や防火対策が求められています。国・京都府・精華町は、指定等文化財の所有者に対して、要綱等に則り、防災・防犯設備の設置や点検に補助金を交付しています。

（５）ハザードマップの作成・公開

「京都府マルチハザード情報提供システム」や精華町のハザードマップが構築・作成され、ウェブサイト上で閲覧することが可能です。文化財の所在地の危険度を確認することができます。

（６）精華町文化財所有者等連絡協議会の結成

令和５年（2023 年）11 月、精華町文化財所有者等連絡協議会（精文連）が結成されました。平時から防災･防犯について知識を共有するとともに、災害･犯罪発生時には迅速に連絡を取り合い、被害状況について所有者と行政とが情報共有し対処できるよう目指しています。

Column 愛する・学ぶ・活かす

精華町デジタルミュージアム「せいか舎」

精華町デジタルミュージアム「せいか舎」は、精華町の歴史や民俗に関する様々な資料をインターネット上で展示（紹介）するデジタルミュージアムです。

町内の指定等文化財を紹介しているほか、昔の町内の様子が分かる写真や、町の歴史に密着したコラムなどを掲載しています。また、昔の写真については広く募集をしています。

左　昔の写真を紹介するページ。大正～昭和を中心に、住民から提供のあった写真を公開している。
中央　「みんなの民具」のページ。実際の使用者の経験なども盛り込んでいる。
右　コラムページ。精華町ならではのエピソードも紹介している。